

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	指定番号2172101228		
法人名	野原電研株式会社 ケアサポート事業部		
事業所名	グループホーム・柚子		
所在地	大垣市 外渚 2丁目 79番地		
自己評価作成日	平成21年6月4日	評価結果市町村受理日	平成22年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2172101228&amp;SCD=320">http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2172101228&amp;SCD=320</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ住民福祉研究会
所在地	岐阜県羽島市竹鼻町狐穴719-1 はしま福祉サポートセンター内
訪問調査日	平成21年11月24日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は1ユニット 9名の所帯です。デイサービス・ショートステイが併設されていて賑わいがあり、毎月のボランティアさんの催し物・レクリエーション及び館内に設置されている足湯の場でいろんな人との交流が行なわれています。花見・外食等の外出は計画的に実施され、ご近所の散歩は天気の良い日に出かけています。一日の生活の中で体操等の活動的な時間となじみのご利用者同士でゆったり過ごす穏やかな時間が適度に融合し、生活のメリハリ感が感じられます。私たちはお1人お1人の生活習慣を大切にしながら、今この一瞬の命の喜びである「笑顔」の多い毎日をお手伝いさせていただいております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「介護は話し上手、聞き上手 - あの手この手 みんな大好き柚子の顔」を今年度の標語として掲げ、利用者や地域住民との交流を深めながら今までの利用者の暮らしを支え続けたいと、日々のケアに取り組んでいる。コミュニケーションを大切に、利用者とともに過ごし支え合うことで、利用者の笑顔を引き出したいという職員の熱意が伝わってくるホームである。近隣の老人ホームや幼稚園とともに地域防災協定を結ぶなど地域の資源を有機的に結び、地域の一員として利用者の暮らしを支える取り組みを行っている。常に利用者本位のより良い支援を目指しているホームである。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は「利用者のこれまでの生活環境を理解するとともに地域の人々と共に尊厳ある日々を送ってもらう」。安心安全な環境の中でその人らしい生活が維持できるように努めている。	利用者一人ひとりとしっかり向き合い、互いに理解しあって利用者の生活を支えて行くことを目指している。その思いは全職員に共有されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	機会を見つけてはご近所への外出を行い、地域の方々との出会いが少しでも経験できるように努めています。交通安全ボランティアの取り組みを検討しています。牛乳パックの回収参加、公民館作品展への出品は継続しています。	日々のホーム周辺の外出では地域の方々との交流がある。また、地域が開催する作品展や資源回収への参加など、地域の一員となるよう積極的な取り組みがなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症研修等に参加し理論と実践の経験をつんでいます。地域のお年寄りを中心とした会合等に参加させていただけるよう計画をしています。認知症キャラバンメイト研修に参加(5名)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター、家族代表、民生委員さんに参加をしていただきご要望等にたいして常に改善をするという姿勢で取り組んでいます。	3ヶ月に一回定期的開催している。家族の意見を聞く場となったり、ホームの活動を理解してもらい地域の協力を得やすくなるなど活用されている。一方、継続的な出席とならないメンバーもあり、情報が共有できないでいる。	地域の理解と協力を得るよい機会である。出席が遠のいている機関への働きかけを継続し、出席に繋げることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の研修・行事活動に積極的に参加し、地域に密着していくように考えています。判断に迷う事例・実情についてご指導をいただいています。	ホームの行事開催の案内やボランティア協力の問い合わせ、病院受診についての相談など、連絡を密に取っている。また認知症キャラバンメイトとしての活動も市と協力しながら積極的に行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のケアによるご利用者ご本人の心理的・身体的影響をよく理解し、拘束をしなくても安全確保が出来るケアをひきつづき目指しています。	研修を行い、マニュアルに基づいて、身体拘束をしない具体的な取組みを職員全体で行っている。玄関の施錠はなく、いつでも出入りできる環境になっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常にお体に変化がないか観察しています(入浴時)。ご利用者に対する言葉にも注意を払っています。不穏状態のご利用者に対して特定の職員がかかりきりにならないように皆で支えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	人権擁護の立場を明確にし、権利擁護に関する研修参加をすすめ、必要な人に活用できるようにしていますが現在のところ制度の利用はありません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の中身について、実際の日常生活を例に挙げて説明をしています。契約後も家族の方が不安に思われていることなどについて相談にのれるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	共にご利用者を支える立場であることをご家族に説明をしています。ご家族からのご意見は送り書に記入し、職員全員がわかるようにし、カンファレンスの場で実施状況・評価等再確認しています。	普段から家族の意見は記録としてとどめ、職員全員で共有できるようにしている。さらに第三者委員として地域の民生委員に依頼し、ホーム内外から家族等の意見を受け入れる仕組みを作っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中でも気軽に提言できる環境を整えています。毎月1回カンファレンスを開催し、職員よりの提言をまとめています。事項によっては管理者より施設長への提言となることもあります。	月1回開催のカンファレンスで出された職員の意見等は、運営会議に反映する仕組みがある。また日常的に、現場職員が管理者に意見を言える関係がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本社の一事業部として福利厚生等充実している。職員の日頃の努力は処遇に反映されている。介護福祉士試験の勉強会を開催し、各自のキャリアアップを支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症研修及び各種研修に参加、職場内研修は計画的に実施している。今年度介護福祉士受験の施設内勉強会へ職員3名が参加します。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会、ケアマネージャー同士の交流で情報交換を行なっています。こうして得た情報について有用な部分について周知徹底をはかるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の訴えについて優先順序を確認しながらその内容について納得を得られるよう対応しています。他の職員とのチームワークの中できちんとした個別対応ができるよう協力し合っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困ってみえる事を共有し、よりよい方法よりよい解決と一緒に考えて実行できるように努めています。ご様子について電話等で気軽に連絡できる関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の要望を聞き具体的な実施計画について話し合い、同意の上、実行しています。グループへの受け入れはショートステイの利用をしていたが、その時のご様子等をみさせていただきながら判断を行なっています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	年長者として人生の先輩として敬意を払いつつも家族のような関係を築いています。人間としての大事なことをさりげなく教えていただいているということに気づかされることがあります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連携を図り、ご利用者の様子について定期的に報告をしています。ご家族が面会に見えた時のご利用者の嬉しそうなお顔は私たちがどんなに頑張ってもかなわないものがあります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	面会時は面会者との時間がよりよく過ごせるように支援しています。外出したときにご利用者自身やお知り合いの住んでみえる所等を訪ねたりすることもあります。	家族等の訪問は利用者によって週2回から月1回程度と様々ではあるが、訪問は比較的多く、そのような場面を大事にしてこれまでの関係を途切れさせない取り組みをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入りトラブルがないように他の方と関わり合えるように支援しています。共同生活の中での馴染みの関係・自分の居場所・自分の席を確保しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中の方にはお見舞いを兼ね訪問しています。家族の方にお会いしたときに途中経過等の様子を伺っています。サービス終了時は相談支援に応じる姿勢を示しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活習慣がなるべく維持できるようにご本人の思いを聞き継続的な生活目標を提示できるようにしている。	歌好きな人がカラオケに行ったり、写真の好きな人はカメラを持って外出したり、一人ひとりの思いを尊重しながら支援している。意向を表出できない人には家族を介してきっかけ作りをし、表情から汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の方からの情報収集につとめ、ケアに生かせるように努めています。日々のかかわりの中で多くの情報を得てきました。ご本人にとってより生きがいのある生活をめざしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に日常の様子を記載し、その日の過ごし方を把握しています。職員の気づきはお互いに情報交換をしながら記録しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者の穏やかな日常生活のために、ご家族・職員の意見を取り入れた介護計画を作成しています。介護計画実施のなかで定期的に評価を行い、常に実情に合ったケアを目指している。	職員が把握した利用者に関する情報は計画担当者に伝えられ、利用者本位の計画を作成している。また評価をもとに、3ヶ月に一度定期的な見直しも行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に記入する際、ご本人の喜ばれる様子、問題行動等の内容が第三者にもわかるように記載しています。介護計画の再計画時に反映されるように心がけています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ショート、デイサービスとの交流により(足湯、中庭での日光浴・レクリエーション)他の人との関わりを持てるように努めています。ご家族が病院受診に同行できない時は職員が同行しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域自治会活動の中で何かお手伝いさせていただけることを模索している。定期的に来所される園児、ボランティア、民生委員との面会がご利用者の楽しみになっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望する病院へ受診できるように支援しています。特にご要望がないときは協力医が2週間ごとに往診されています。	利用者および家族が希望するかかりつけ医に受診する時は、家族同伴でお願いしている。受診状況は、家族及びかかりつけ医と連携を取りながら周知している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が入所者の健康管理をさせていただいています。特変時は看護師に報告、指示をもらい対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も管理者を通し情報交換をし、ご家族の意向を聞きながら引き続きグループでの生活ができるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族・協力医と話し合いご希望に添った支援ができるように取り組んでまいります。	サービス利用の初期の段階から本人と家族の思いを確認している。終末期の対応について職員間で意見交換や研修を重ねており、現在はホームでの看取りも選択肢の一つとして提供できるよう、具体的な取組みを進めているところである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時の対応マニュアルはあるが、全ての職員に対する応急手当、初期対応の訓練は定期的に行なわれていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火訓練を行い、消防署・地域自治会への協力をお願いしています。	近隣の老人ホーム、幼稚園と地域防災協定を結び、防災の協力関係を作っている。年2回の防災訓練を行っているが、家族の要望で今年度は夜間の訓練も取り入れるなど積極的な取組みがなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の訴えについて共感できるよう心がけています。その時々のご様子に対して適切な言葉かけスキンシップ、創作活動、アクティビティの提案を行なっています。	倫理規定に基づき、利用者の尊厳やプライバシーを守る姿勢が貫かれている。トイレ誘導時の言葉かけや態度にも配慮した対応がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを聞き(思いを察する)、自己選択・自己決定ができる様支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の思いを重視し、活動的な時間とゆったりとした気持ちで生活していただける時間が生活のメリハリとなるよう心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の好きな服を自分で選んでいただけるよう援助しています。散髪は月1回理容師さんに来ていただき、本人の希望に添った髪型にしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを決める際、何が食べたいかを聞いています。できる事は職員と一緒にやっていただいています。	利用者一人ひとりに寄り添う時間を増やしたいという思いで、月の半分は業者の給食にしている。ホームでの調理の時は利用者の希望を聞き、できる部分での参加を促し、職員と一緒にいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事摂取・水分摂取をチェック表にて記録し、摂取状態を常に把握しています。自立摂取の状態、一部介助・全介助の様子・嚥下の様子について注意を払っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後その人に合った方法にて支援しています。就寝前の義歯の取り外し、起床時の装着について支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて時間ごとにトイレ誘導等を行っています。排泄に伴う一連の動作はリハビリにもなっています。	排泄パターンを把握した誘導をし、一人ひとりに合わせた自立を支援している。尿パッドを使用している利用者にさり気なくパッドを渡してトイレ誘導するなど、プライバシーに配慮した対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取をはかり、活動的な日中生活を心がけています。便の排泄管理をしながらご本人にあった対応を行なっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1週間の予定として計画をしていますがご本人の体調等によって代わることがあります。衣服の着脱はあわてず、入浴時間は体調管理の範囲なるべくゆっくりを心がけている。	浴室はデイケアやショートステイ利用者と共に、自立度や好みに合わせて利用でき、ゆったりとした入浴が提供されている。入浴以外の日には、足湯を楽しむことができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のその日の体調等によって昼間臥床していただくことがあります。夜間は睡眠優先を基本的な考え方としている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の処方に基づく服薬管理(服薬チェック表)をしています。ご本人の体調の変化に注意しながら、変化が見られる時は家族・協力医に連絡をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干しなど日常の中で手伝ってもらえることはお願いしています。折り紙、写真収集等の趣味、行事への参加、散歩等の外出支援を行なっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間の行事計画の中で季節の花見等月に1回は車で外出をしています。お昼ごはんを食べ物屋さんでいただくこともあります。外出の際家族と一緒に知り合いの家へ行ったり自分の住んでいた近くを車で走ったりします。	ほぼ月1回の行事を兼ねた外出があり、他にホーム周辺の散歩やドライブなど、家族の協力を得ながら利用者の希望を取り入れて支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことを希望されている方には本人が管理できる金額を持って買い物をしていただいています。必ず職員が同行しご本人が不快な思いをいれないようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望にて支援しています。お友達からの電話を取り次いでいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物全体は外光がよく入り明るい雰囲気があります。リビングには季節を感じさせる花々やその時期にあった飾り物(雛人形・5月人形等)があります。トイレの床は清潔保持がしやすいように特別加工がしてあります。	開放感あるテラスに面した居間は、日差しが明るく居心地良い空間となっている。利用者が思いおもいの過ごし方ができるようソファやテーブルが配置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者お1人お1人が思うように過ごしていただけるようにしています。それぞれ日中の過ごされる場所が大体決まっています。そういった馴染みの場所への誘導をさせていただいています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各々の居室はご本人のお好きなようにレイアウトされて、飾り物等を置かれている方もあります。お部屋の環境整備は職員が行なっていますが、ご本人の持ち物の移動についてはお話ししてから行なっています。	各部屋は明るく、利用者の使い慣れた家具が持ち込まれている。使い方もそれぞれに個性があり、利用者が居心地良く安心して過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの床、壁際の手すり、引き戸のドア等の安全な配慮がされている。車いす利用者、歩行不安定な方に対してお1人お1人の能力を把握することで事故・ヒヤリハットを防いでいます。		